



目次:

- 1 要旨
 - 2 パート 1:継続的な増加
 - 3 パート 2:Web スケールのストレージ・アーキテクチャ
 - 4 パート 3:IBM COS
 - 12 パート 4:まとめ
-

Web スケール・ストレージへのソリューション・アプローチ

非構造化データの継続的な増加という課題に取り組む

要旨

デジタル資産の共有、保持、および保護は、現在の IT が直面する最も重大な課題の 1 つであることが判明しています。構造化されていないデータ、つまり従来のデータベース システム内に保管されていないデータはすべてを高解像度化することや、構造化されていないデータに依存する、データを大量に消費する新しいアプリケーションにより、劇的に増加しています。

調査会社の IDC は、多くの組織が構造化されていないデータが年間最大で 80 パーセント増加すると予測しています。¹ このままでは、近い将来、多くの IT グループはペタバイト単位のストレージに急速に近づくこととなります。従来のストレージシステムは、需要がペタバイトを超えるほどに大量のデータをコスト効率よく管理するためには作られておらず、パブリック クラウド ストレージ サービスはすぐに非常に高額になります。

オブジェクト ベースのストレージ システムはペタバイト スケール上のストレージ向けに作られています。これらのシステムは構造化されていないデータに理想的で、Web スケールのストレージ・サービス・プロバイダーはバックエンド・インフラストラクチャのニーズをサポートするためにこれらのシステムを使用します。

IBM® Cloud Object Storage (COS) は Web スケール用の最先端ソフトウェアプラットフォームです。² 企業のソフトウェア・ベースのオブジェクト・ストレージはエクサバイト規模の展開用に開発されてきており、稼働中の非構造化ストレージの容量が 100PB を超える複数の顧客によって既に使用されています。

ただし、IBM COS が他のオブジェクト・ベースのストレージ実装と異なるのは、現在使用されている需要の厳しいほとんどのペタバイト規模のアプリケーション向けの、堅牢なソリューションの提供に焦点を当てているという点です。IBM はテクノロジー・ベンダー、認証済みコンテンツ・リポジトリ、パブリック・クラウド・サービス、企業コラボレーション、バックアップ、およびアクティブなアーカイブソリューションを組み合わせ、企業の統合ラボで作成・テストされた実装を作成します。このアプローチにより、IBM はお客様に、これらのクリティカルなアプリケーションの一貫したサポートと展開の成功を提供することができます。



パート 1 継続的な増加

非構造化データ (従来のデータベース・システムに保存されていないデータ) の増加は、劇的に加速化しています。より多くの個人や機械がより多くのデータを生成しているというだけではありません。現在の非構造化データは本質的にかつてないほど大きく、より複雑で、高密度となっており、保存や管理のためにより多くの容量とより多くの管理リソースを必要としています。

最近まで、非構造化データは主にプレゼンテーション・ファイルや電子メールなどの、テキスト・ベースのドキュメントで構成されており、それらのサイズはキロバイト単位で測定されました。ビジネスにおいてデジタル音声、画像、およびビデオの使用がより一般的になるにつれ、ファイル・サイズはメガバイトからギガバイトに増加しました。高解像度ビデオやアプリケーション (ゲノム配列や地震データ解析など) を最大限活用することで、膨大な量のデータが生成され、テラバイト単位で測定されたファイル・サイズを目にすることも珍しくありません。この傾向は非構造化データの成長を悪化させています。

この継続的な成長減少は、あらゆる形状や規模の IT 組織の課題となっています。潤沢な資金を受けた IT グループであっても、急激な成長率はほとんど管理不可能であることに気付いています。

80 パーセントの成長は一般的

調査会社 IDC の最近の分析で、非構造化データは一般的組織のすべてのデータの 80 パーセントを構成するようになったことがわかりました。³ 60 ~ 80 パーセントの成長率は一般的です。一部のデータ集約型組織では、年間成長率が 100 パーセントを超えることもあります。このレートは増加しています (IDC、2016 年 1 月)。⁴

この急速な成長率は、多くの組織が Web スケール (これまでは Amazon や Facebook、Google などのクラウド・サービス・プロバイダーのみが経験していた規模と複雑性の規模) でストレージ・インフラストラクチャを運用する見込みの直面していることを意味しています。組織のデータ・ストレージはペタバイト以上のしきい値が必要なため、ストレージ・インフラストラクチャとデータ管理に対する完全に新しいアプローチが必要です。

Web スケールでの IT の運用

Web スケールでの運用とは、IT 予算やリソースを比例的に増加させることなく容量や機能を拡大する方法を探すということです。ただし、Web スケールのアーカイブは夜間に行われません。インフラストラクチャ・コストの削減にもかかわらず、コモディティ・ハードウェアの使用が増加することにより、組織は膨大な予算とリソースの課題に直面しています。この頻度により、オンラインに保持するデータの種類や機能、成長するストレージ環境を管理するために採用するスタッフの数、およびデータの可用性にも悪影響を及ぼします。

裒湯用なデジタル資産の担当者として、IT 組織はデータが常に利用可能であり、潜在的な損失やセキュリティ侵害からデータを保護する責任を負ってきました。サイバー犯罪がまん延し、ダウンタイムのコストが大打撃を受けるような世界では、これは困難な仕事となる可能性があります。ストレージのオーバープロビジョニングとデータのレプリケーションはデータの可用性、耐久性、およびセキュリティの課題を解決するための共通のアプローチです。ところが、Web スケールでは、これらの技術は既存の問題悪化させ、すぐに対応不可能となる可能性があります。

非構造化データの成長も、ビジネス・アプリケーションに対する組織のニーズに素早く対応する能力に素早く対応する能力に連鎖反応を与えます。現在のペースが速く競争率の高いビジネスの世界において、アプリケーション開発のアジリティと柔軟性は翔さんされますが、リソースがデータ成長の管理に費やされてしまうため、IT チームは新しく革新的なソリューションを迅速に展開し、ビジネスを改善することができなくなっています。

データの増大は爆発的です



図 1: 非構造化データの増加を示すデータ⁵

パート 2

Web スケールのストレージ・アーキテクチャ

非構造化データの自由な成長のニーズを満たすための新しい Web スケール・ストレージ・アーキテクチャの条件は、まるでストレージ管理者の究極のウィッシュ・リストのようです。ストレージが複数のアプリケーションを同時にサポートするためには柔軟性である必要があります。制約されないデータの成長に対する需要を満たすためには優れたコスト効率が必要となり、偶発的な破損や悪意のある破損やオールウェイズ・オンからデータを保護し、アプリケーションのダウンタイムの可能性を排除するためには安全である必要があります。また、できる限り、ストレージ・インフラストラクチャをアップグレードする高額な「完全に置き換え」の必要性を回避するため、既存のストレージ・コンポーネントと併用できる必要があります。

パブリック・クラウド・ストレージ

パブリック・クラウド製品を使用することで、IT チームはストレージ・リソースを迅速に適用し、非構造データの成長に対する需要を解決できます。これらのサービスはオブプレミス・インフラストラクチャの簡素性により、構造化データの保存に対する柔軟性と容易性を提供します。これは説得力のある価値提案です。ただし、ストレージ容量がペタバイトのしきい値に近づくにつれ、これらのサービスのコストは高額になり始めています。さらに、多くのサービスでは、IT 組織がパブリック・クラウド・ストレージを代替策として考えた場合に IT 組織が考慮する、エンタープライズ・レベルのセキュリティが不足しており、データがどこにあるかを管理できません。

従来の SAN および NAS

従来の SAN および NAS ストレージ・システムは、非構造化データの成長の課題のレベルに到達しようとしています。これらのソリューションは多数のビルトインおよびボルトオン管理機能を提供できます。ただし、Web スケールの容量が必要となる前に開発されたストレージ・アーキテクチャがネックとなることが多く発生します。

オープン・ソース・ソフトウェア

非構造化データの成長という課題を解決するために必要な機能を提供することを約束する、複数のオープン・ソースの、ソフトウェア定義ストレージ・プロジェクトがあります。これらのプロジェクトはソリューションを効果的に無料化するライセンスによる恩恵を受けます。ただし、理論上ではオープン・ソース・ソリューションが説得力を持つように、これらは必然的に成熟度に欠けており、IT が管理容易性を実現するために必要とするツールが不足していることがよくあります。これらのシステムを機能させるため、IT グループはソリューションを特定の環境に適合させるようリソースを専念させる必要があります。これにより、組織のニーズにたいする IT の応答性を高めるという全体的な目標から逸れてしまう可能性があります。

オブジェクト・ストレージ

非構造化データの成長という課題を解決するために必要な機能の提供を主張する既存ベンダーや新興ベンダーには、多くの新しいストレージ・ソリューションがあります。これらのストレージ・システムは主にオブジェクト・ベースです。IT 組織に、彼らが必要とする柔軟性を与えるさまざまなデータ管理機能やインターフェースを提供します。オブジェクト・ストレージ・アーキテクチャは Web スケールのインフラストラクチャを念頭に開発されました。柔軟性、コスト効率性、セキュリティ、可用性を提供するよう設計され、非構造化データのホストに最適です。

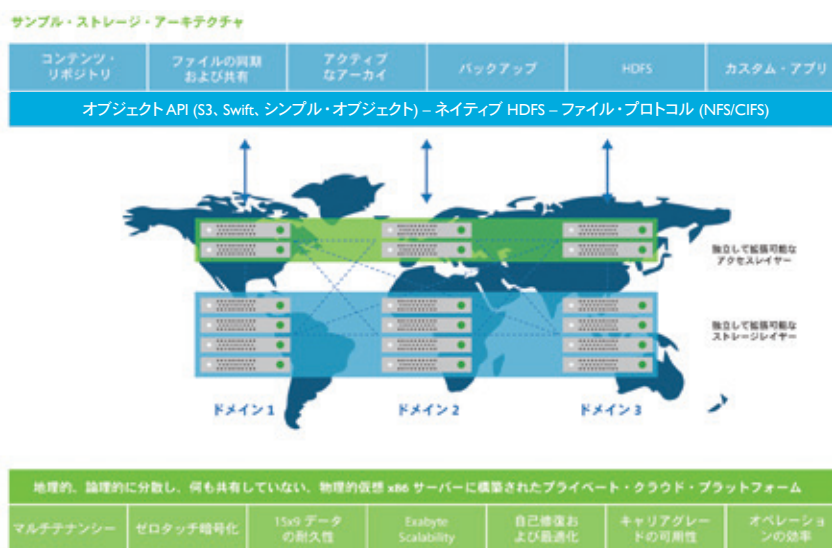


図 2: ストレージ・アーキテクチャの地理的サンプル

パート 3 IBM COS

IBM はオブジェクト・ストレージ・システムの市場リーダーです。6 会社のソフトウェア・ベースのストレージ・プラットフォームは世界最大のデータ・リポジトリにおいて、本番環境で 100PB 以上のストレージ容量を持つ多くのお客様で実証されてきました。IBM COS システムはさまざまなハードウェア・プラットフォームの開発用に設計され、お客様にハードウェア・インフラストラクチャの柔軟性と選択肢を提供します。洗練された、シンプルな管理システムにより、管理者は数十ペタバイトのストレージ容量を制御し、障害、拡大、アップグレード、再配置から独立してデータが利用可能であることを検証する、オールウェイズ・オンのアーキテクチャをサポートします。

IBM COS System はデータ管理プロセスの中心に、キャリア・グレードのビルトイン・セキュリティ機能を組み込んでいます。これにより、偶発的または不正な侵害からデータを保護します。IBM COS はシステムが成長するにつれてより効率的となるコスト効率のよいストレージ・プラットフォームでこれらの機能を提供します。

オブジェクト・ストレージへのソリューション・ベースのストレージ

IBM は IT 組織が直面するストレージの課題を解決するには、自社が単独で高い信頼性、安全性、および拡張可能なストレージ・プラットフォームを提供するだけでは不十分であると認識しています。そのため、IT 組織がデジタル・アプリケーション・ポートフォリオの特定の要素を解決し、現実のビジネスの価値を提供するのに役立つ統合ソリューションを開発および提供するため、弊社は多数の業界大手テクノロジー・ベンダーと連携してきました。

コンテンツ・リポジトリ

コンテンツ・リポジトリは、組織の最も重要なデジタル・コンテンツを保持および保護します。リポジトリ選択は、信頼性、ペタバイトの拡張性、セキュリティ、および管理容易性を含むさまざまな主要要因に基づいています。コンテンツ・リポジトリ・ソリューションは高額なレプリケーションを必要とせずに、データの高い耐久性と、ビルトイン・サイトの耐障害性を提供する必要があります。ソフトウェア・ベースのコンテンツ・リポジトリ・ソリューションはさまざまなハードウェア・プラットフォームをサポートする、最も柔軟性の高い展開を提供する傾向があります。

画像、オーディオ、動画データの一般的なコンテンツ・リポジトリ

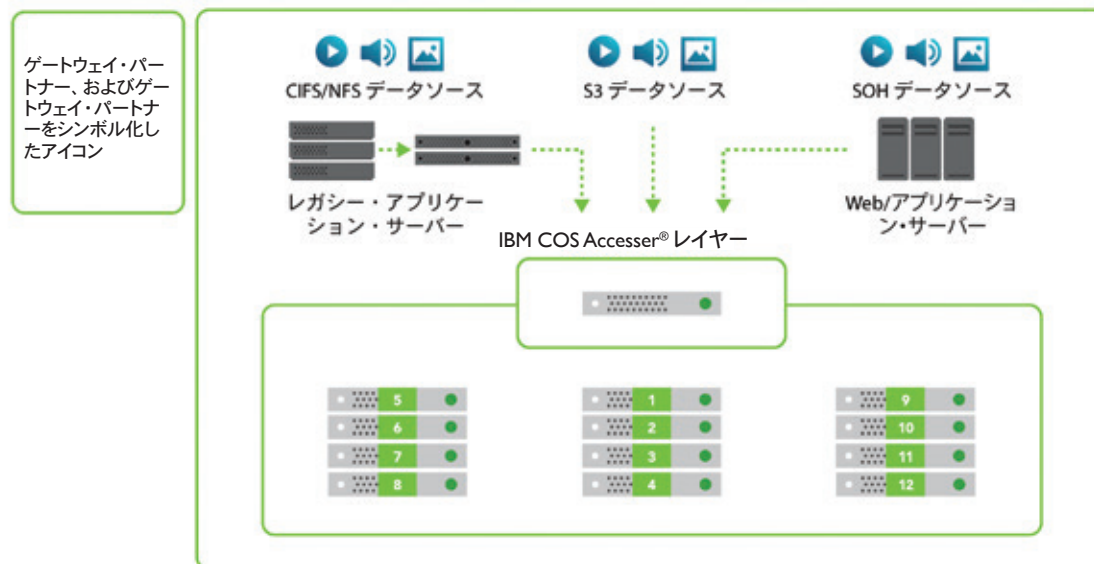


図 3: 画像、音声、およびビデオ・データで一般的なコンテンツ・リポジトリ

IBM クラウド

テクニカル・ホワイトペーパー

IBM COS は組織がコンテンツ・リポジトリで必要とする機能を提供するのに役立ちます。ソフトウェア・ベースのストレージ・ソリューションは Microsoft の SharePoint や Integrated Rule-Oriented Data System (iRODS) などのコンテンツ管理ソリューションと統合し、統合コンテンツ・リポジトリ・ソリューションを提供します。

メディアおよびエンターテインメント市場では、組織はメディア資産管理 (MAM) およびデジタル資産管理 (DAM) ソフトウェアを使用してコンテンツ管理を提供しています。MAM および DAM ソリューションの多くの大手ベンダーには、IBM COS System を使用して運営する資格があります。IBM はソフトウェア・ベンダーと緊密に連携してジョイント証明書を実行し、彼らを選択したコンテンツ・リポジトリ・ソリューションが、必要とする信頼性、拡張性、セキュリティ、および管理容易性を提供します。

ヨーロッパの大手テレビ局は、重要なデジタル資産を保持および提供する次世代のクラウド・ベース・コンテンツ・リポジトリとして IBM COS System を選択しました。この会社のテレビ番組、スポーツ・イベント、ニュース番組やその他のイベントは、IBM COS System 内に保存されます。メディアは、IBM COS System から世界中のサブスクライバーにさまざまな形式で配信されます。また、この会社は電話の記録や分析データを含むその他の種類の非構造化データのリポジトリとして、インフラストラクチャをより効率的に管理できる IBM COS System を使用しています。

プライベート・クラウドの STaaS (サービスとしてのストレージ)

プライベート・クラウドの STaaS (サービスとしてのストレージ) を使用することで組織はセキュリティやプライベート・クラウド環境の制御を追加しなくても、内部ユーザーや顧客が必要とするストレージを柔軟かつ迅速に提供することができます。パブリック・クラウド・サービス・プロバイダーによってストレージが提供されるため、これらのシステムはマルチテナンシーを使用して、共通のインフラストラクチャから多くの内部組織のニーズに対応します。1 人のユーザーによって保存されたデータが他のユーザーによって侵害されないことが非常に重要です。

IBM COS は Citrix CloudStack, OpenStack, VMware などの大手クラウド管理およびオーケストレーション・プラットフォームと統合し、プライベート・クラウド STaaS 機能を提供します。

保管中のデータや移動中のデータの暗号化は、マルチテナント環境でのユーザー・データの機密性、可用性および整合性に対する基本的な保証を提供します。IBM COS は、プライベート・クラウドのお客様が顧客に対して完全に統合されたソリューションを提供できるよう、バックアップ、アーカイブ、およびクラウド・ゲートウェイ・ソリューションの認証も行っています。

また、プライベート・クラウドは IT 組織に対し、1 つのプラットフォームに複数のビジネス・ソリューションを統合する機械を提供します。このアプローチにより、プライベート・クラウドのユーザーが必要とする拡張性、信頼性およびセキュリティをコスト効率よく管理・提供することができます。IBM COS System は堅牢で、統合プライベート・クラウドをサポートでき、ペタバイト以上の規模の運営へ拡大するためのよりシームレスな道のりを提供します。

Storage-as-a-Service (サービスとしてのストレージ)

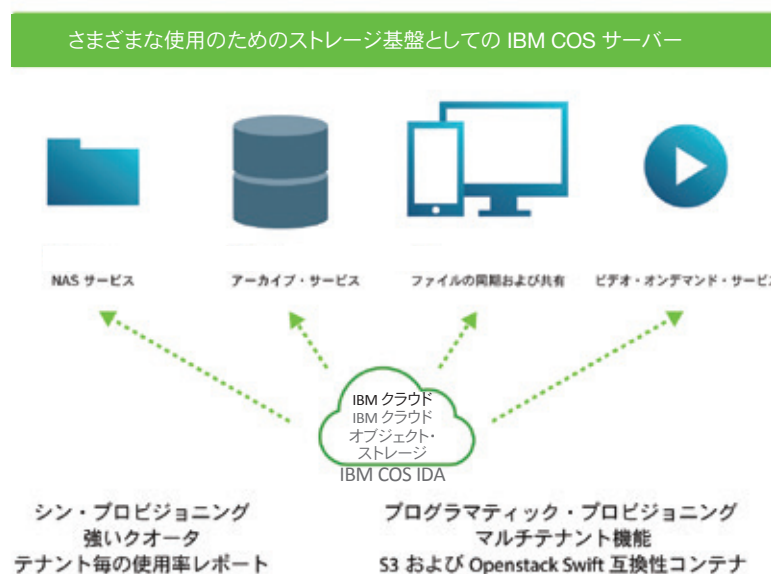


図 4: IBM COS の基礎の図

IBM クラウド

テクニカル・ホワイトペーパー

Hightail (旧 YouSendIt) は大手 Web ベースのファイル共有サービスです。会社は世界中の顧客へのファイル・ベースのストレージおよび配信サービスの提供に IBM を選択しました。Hightail には、世界中で約 200 か国に 4500 万以上のサブスクリイパーを持っています。彼らのサービスは信頼性が高く、24 時間利用できる必要があります。会社はビルトインの信頼性と高可用性によりに加え、IBM COS はユーザーへのサービスを中断することなくメンテナンス、アップグレード、拡大、および再配置を実行できることから、IBM を選択しました。IBM COS は Hightail が高額なデータの追加コピーを作成することなくパフォーマンスや信頼性の目標を達成し、大量のインフラストラクチャを節約できるようサポートします。

エンタープライズ・コラボレーション

エンタープライズ・コラボレーション・ソフトウェアは生産性を向上させ、企業がよりアジャイルで高い競争率を持てるよう設計されました。これらのソリューションを使用することで、作業者は世界中のどこにいてもデジタル・コンテンツへ簡単かつ安全にアクセスし、それらのコンテンツを共有することができます。セキュリティに関する懸念によって、コラボレーション・ソリューションへのパブリック・クラウドの使用が排除されることが多くあります。エンタープライズ・ユーザーの場合、Web スケールでビジネス・クリティカルなコンテンツの安全な共有を促進する社内プライベート・クラウド・ソリューションが好まれることがよくあります。

IBM COS System はゲートウェイおよび同期ソリューションを共有する多くのグローバル・ファイル統合し、地理的に離れた場所にいる従業員が保護されている環境でビジネス・クリティカルなコンテンツでコスト効率よく協力できるようにします。IBM はプライベート・クラウド・インターフェース上での分散されたファイルの共有を可能にする Nasuni、Panzura、Avere などのクラウド・ゲートウェイ・ベンダーと統合してきました。また、弊社は複数のデバイス間でのデータ動機や、多数のユーザー間での共有の保護を可能にする、多数のファイル同期および共有テクノロジーのベンダーと連携しています。これらのベンダーは IBM COS System と完全に統合されています。

あるグローバルな広告代理店では、多数の従業員が世界中の複数のオフィスで顧客のためにリッチ・メディア・コンテンツは広告キャンペーンを作成し、世界中に分散された IBM COS システム全体でデータを共有します。この会社の従業員は IBM COS ソリューションを使用することでどこからでもキャンペーンに協力することができるため、顧客のマーケティング・ニーズを満たせるよう組織全体の人材を生かすことができます。

エンタープライズ・コラボレーション

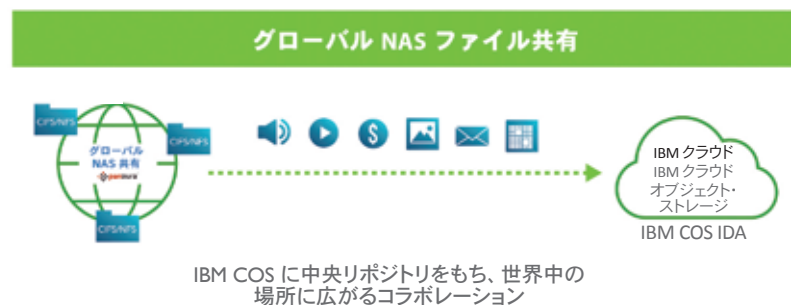


図 5: IBM COS 中央データ・リポジトリを使用したエンタープライズ・コラボレーション

バックアップ

IT 組織にとって、偶発的であっても不正によるものであっても、潜在的な損失からクリティカルなデジタル情報を保護することは、最も重要な責任の 1 つです。ただし、多くの場合、データ保護プロセスは管理が困難で、保護レベルは組織の希望するレベルに満たないことがあります。障害発生時により迅速な復旧を行うため、バックアップ・データをオンラインで保管することは、現在のバックアップ・アプリケーションの主な機能です。これらの機能を、災害復旧用のサイトの耐障害性を組み込む Web スケールのストレージ・インフラストラクチャと統合することで、クリティカルな復旧データが必要な時にいつでも利用できるようにします。

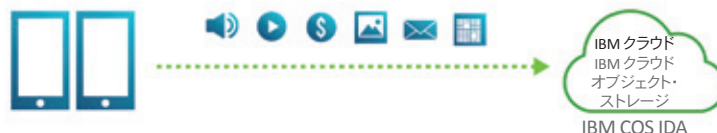
IBM は多くの大手バックアップ・ソリューション・ベンダーと提携してきました。これらのソリューションは IBM COS System と完全に統合され、より信頼性が高く、セキュリティ機能が豊富で、コスト効率の良いバックアップや復旧インフラストラクチャを提供するよう作られています。また、IBM は RESTful インターフェイスをサポートするバックアップ・アプリケーションと統合しています。

これらのデータ保護ソリューションを統合することで、IT 組織はバックアップ・データのためのよりコスト効率がよく信頼性の高い、セキュリティが強化されたオンライン・リポジトリとともに、ビルト・イン耐障害性および障害復旧を手に入れることができます。

パブリック・クラウド・サービスにデータを保存する組織にとって、データの保護は主な懸念の 1 つです。イギリスの大手クラウド・サービス・プロバイダーは、IBM COS System を使用して、お客様に保護されたバックアップ・ストレージを提供します。彼らは、顧客がデータをより安全でコスト効率の良い方法でクラウドにバックアップし、他の人物がクリティカルな情報へのアクセスを取得できるかどうかの懸念を緩和できるよう、IBM COS を選択しました。

バックアップ

モバイルユーザーが作成したコンテンツおよび音声メールの保護



カスタムの電話バックアップ・アプリケーションは、IBM COS へコピーすることで携帯電話コンテンツを保護します

図 6: 電話バックアップの保護

アクティブ・アーカイブ

組織が競争力のある洞察や市場での優位性を求めてより多くの企業データを取り出そうとするに伴い、ストレージ・システムはアーカイバル・デジタル・コンテンツをほぼ無限に保持することを課せられています。アクティブ・アーカイブは必要なときにいつでもオンラインでアクセス可能および利用可能な企業非構造化データ向けのリポジトリを提供します。これらのシステムは膨大な拡張性ととも、システムがオンライン状態のときに参照元ハードウェアを簡単にアップグレード、再配置、更新できる機能を提供する必要があります。

IBM COS System はアクティブ・アーカイブに対してすべての必要な機能を提供するよう設計されています。

IBM COS は市販されている多数のアーカイブと統合し、お客様に堅牢で、完全に統合されたソリューションを提供します。

IBM COS System はデータへのアクセスを中断せず、コストのかかるデータのコピーも作成することのない、参照元ハードウェアの簡単な更新をサポートします。

シカゴ大学のデータ・インテンシブ・サイエンス・センターは膨大なデータ・ストレージの課題を抱えていました。彼らは数十ペタバイトのゲノム研究データを保存でき、世界中の研究者や医療専門家がこの情報に簡単にアクセスできるアクティブ・アーカイブ・ソリューションを構築する必要がありました。その上、彼らは数か月以内にシステムをオンラインにする必要がありました。シカゴ大学は科学的研究コミュニティに大規模なバイオメディカル・コモンズを構築してきた IBM をデータ・インテンシブ・サイエンス・センターに選びました。たった数時間でマルチペタバイトのシステムが展開され、ゲノム・データを非常に迅速に受け取ることができました。世界中の研究者にとって膨大な規模でデータを集めることは、ガン研究調査のコラボレーションや変革を実現するのに役立ちます。

アクティブなアーカイブ

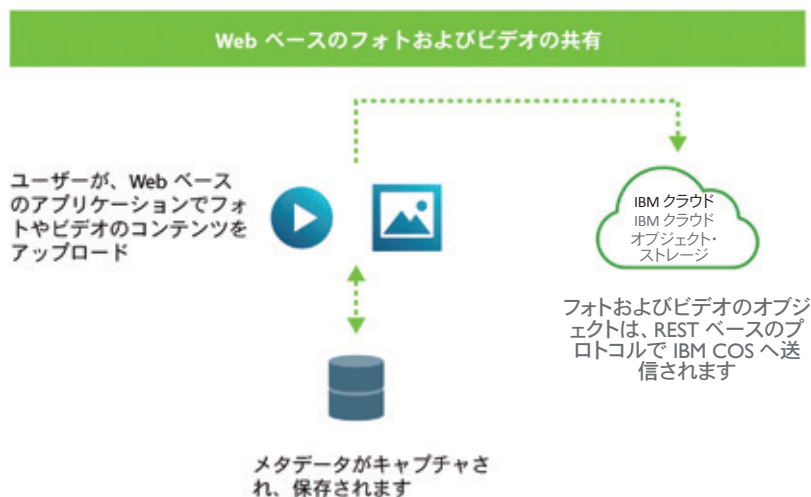


図 7: アクティブなアーカイブ電話およびビデオ共有用 IBM COS モデル

ストレージの構成

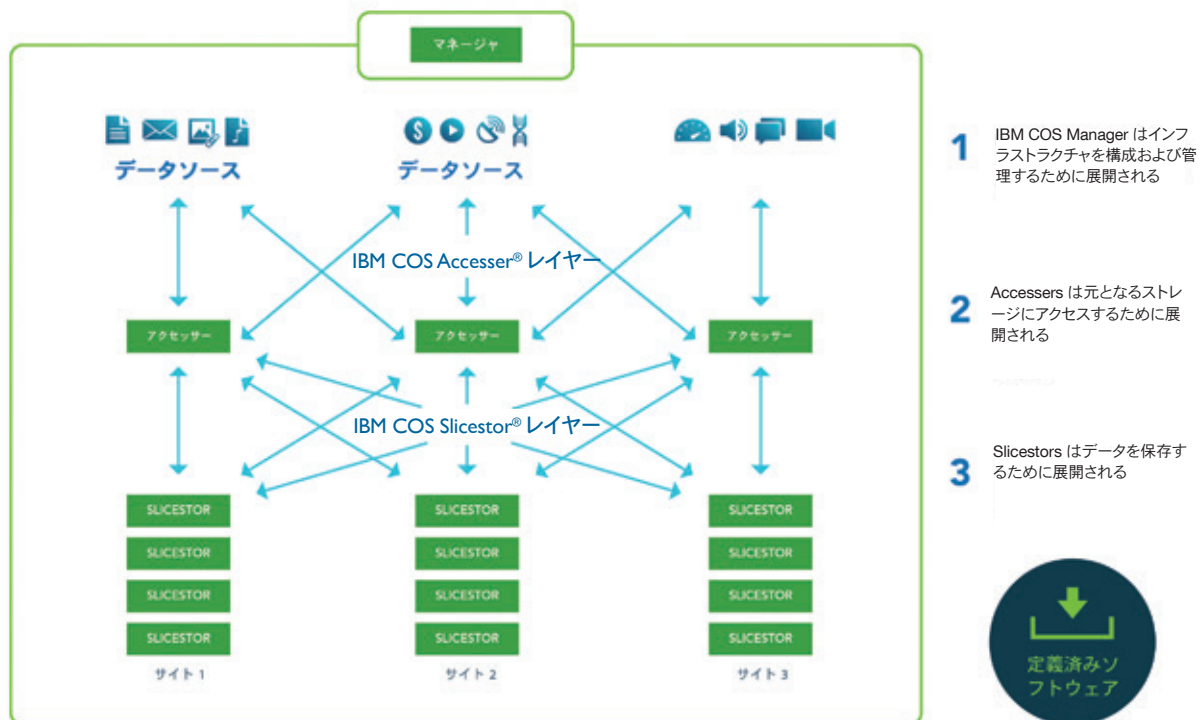


図 8: 3つのコンポーネントを示す IBM COS 構成の例

業界ベースのソリューション

IBM COS ソリューションや、多くの業界における非構造化データの成長という課題を解決します。

金融サービス

金融サービス・セクターにおいて、信頼性とコンプライアンスは会社が直面する最も重要な問題の2つです。IBM COS System は顧客データに対する卓越したデータ保護を提供し、金融サービス会社が非常に競争力が高いモバイル環境において優れたサービスを提供できるようサポートします。IBM COS はセキュリティ機能が充実した、拡張可能なストレージ・ソリューションを提供し、これらの組織がデータの脆弱性を排除し、厳密なコンプライアンス規制を満たすことができるようサポートします。

メディアおよび通信

メディアおよび通信会社は、顧客に提供する体験を増減させることができます。企業は新しいコンテンツを生産、配信、および保持し、4K ビデオ解像度やオンデマンドのビデオ・サービスなどの新しい革新的なソリューションの需要を満たすという圧力に常に晒されています。組織が長編映画、高解像度デジタル画像、またはマルチメディア・ドキュメントを取り扱っているかどうかにかかわらず、メディアおよび通信会社は IBM COS の信頼性が高く、セキュリティ機能が充実したコンテンツ・ストレージ・ソリューションに自分たちのプロダクション・コンテンツをすべて格納することができます。IBM COS の膨大な拡張可能ストレージ・システムはこれらの企業が現在の生産の需要を満たし、明日のビジネスの目標をサポートするのに役立ちます。

IBM クラウド

テクニカル・ホワイトペーパー

ライフ・サイエンスおよびヘルスケア

ライフ・サイエンスおよびヘルスケア組織は人々の生活の継続的な改善を促し、医療業界の最も困難な課題を多数解決するため、テクノロジーとデータを活用しています。IBM COS は新しい医学的大発明の開発をサポートするため、これらの組織に革新的なストレージ・ソリューションを提供しています。IBM COS のオールウェイズ・オン・ソリューションを使用することで、ライフサイエンスおよびヘルスケア組織はデータのセキュリティを確信し、自分たちの得意なことに時間と注意を集中させることができます。

クラウド・サービス・プロバイダー

需要の厳しいクラウド・サービス・プロバイダーのテクノロジーの世界では、拡張性はビジネスの成長を促すために重要です。競争力のあるエンタープライズおよびコンシューマー・ソリューションの提供は、データの保存、分析、およびアクセスを Web スケールで機密を保持しながら提供できるサービス・プロバイダーの能力に依存しています。IBM COS ソリューションは卓越したサービス拡大およびアジリティのための、管理しやすく、拡張しやすいストレージ・プラットフォームを提供します。IBM COS を使用することで、クラウド・サービス・プロバイダーはストレージ・インフラストラクチャについて心配することなく堅牢なテクノロジー・サービスの開発や管理にエネルギーを注ぐことができます。

石油およびガス

石油およびガス業界用に生成された地震データは、非構造データの膨大な成長の原因です。このデータの生成は非常に困難で、高額になることがよくあります。世界中でエネルギー消費量が増加するにつれ、自身データを安全に保存、管理、および配信することは、新しい石油やガスの埋蔵量の調査や開拓にとって非常に重要です。世界中からアクセスできる IBM のストレージ・ソリューションを使用することで、調査及び開拓チームは自分たちのデータをコスト効率よく管理し、より賢い決断や素早い復旧を行うことができます。

政府

公共の利益のために働く組織は、非構造化データの成長と保持に継続的に取り組んでいます。軍事ミッション、科学的発見、または市民の利益のいずれをサポートする場合でも、これらの組織は膨大な非構造データを管理できる能力に依存しています。IBM COS Solutions は政府機関が効率的に機密データを保存およびアクセスし、潜在的な不正アクセスからの保護に役立ちます。IBM COS System を使用することで、政府及び公共サービス組織は自分たちのミッションの需要を満たし、クリティカルなデジタル資産を保持するため、非構造化データをコスト効率よく拡張することができます。

統合パートナー・ソリューション

IBM は高品質で顧客中心のソリューションを提供するため、大手テクノロジー・ベンダーと緊密に連携しています。パートナーの多くはグローバルに展開している数十億ドル規模の組織ですが、クリティカルな課題の解決に役立つ革新的なテクノロジーを作り出す中小企業も多数あります。

IBM はこれらのソリューションがシームレスに統合され、顧客の期待通り実行されていることを検証するため、テクノロジー統合ラボに投資しています。IBM はテクノロジー・パートナーと連携して、エンジニアリングおよび技術的知識の統合されたサポートや交換手順を開発します。統合ラボはスループット、1 秒あたりの操作、およびレイテンシに対する顧客の需要を満たすことやパフォーマンスを重視しています。お客様はソリューションが機能することを期待しており、IBM はテクノロジー・パートナーと連携して、これらの期待に応えるよう尽力しています。

パート 4

結論

IBM COS は業界をリードする、革新的で実績のある、Web スケールのオブジェクト・ベース・ストレージ・システムです。IBM のお客様の多くは、本番環境に 100PB 超の非構造化データ・ストレージを展開しています。また、これらのお客様は同じプラットフォームでエクサバイト規模の容量のニーズを満たすことができるか心配されています。けれども、自分たちの信頼性の高い、安全でスケーラブルなストレージ・プラットフォームを提供するだけでは、現在の非常に需要が厳しい IT 組織の多くにとって不十分です。これらの組織はコンテンツ・リポジトリ、パブリック・クラウド・サービス、エンタープライズ・コラボレーション、データ保護およびアクティブ・アーカイブに対する非常に現実的なビジネスのニーズを解決する、ターゲットを絞った具体的なソリューションを必要としています。

IBM は IBM COS System に組み込むソリューションを提供するため、業界をリードするテクノロジー・ベンダーと提携しています。会社の統合ラボを通じて、パートナーは自分たちの製品を IBM COS System と共に使用するよう認証し、合同の顧客に対し、これらのソリューションが本番環境ではうまく動作するだけでなく、IBM やソリューション・ベンダーによって連携してサポートされるレベルの機密性を提供します。

幅広い市場セクターの企業や公共サービスは、非構造化データの成長によって非常に現実的な課題に直面しています。これらの組織が恩恵を受けるには、このデータの保存、保護、アクセスという課題を解決する方法を学習することが不可欠となっています。IBM には、非構造化データがエクサバイト以上の規模に成長してもお客様が引き続きそれらのデータに依存できる十分に試行されたテクノロジー、経験、およびソリューションがあります。

IBM Cloud Object Storage について

IBM Cloud Object Storage は組織に対し、ハイブリッド・クラウド環境で急激に増加する現在の非構造化データを保存、管理、およびそれらにアクセスするために必要な柔軟性、スケール、および簡素性を提供します。当社の実績あるソリューションは、いくつかの世界最大のリポジトリに依存することで、ストレージ・コストを削減すると同時に企業モバイル、ソーシャル、分析およびコグニティブ・コンピューティングに対する従来の作業負荷と新興のクラウド由来による作業負荷の両方を高い信頼性でサポートし、ストレージの課題をビジネスでの優位性に変えます。IBM Cloud Object Storage は IBM が 2015 年に買収した、オブジェクト・ストレージのリーダーである Cleversafe のテクノロジーを元にして構築されています。

詳細情報

電話での問い合わせ先: 312-423-6640 または電子メール: sales@cleversafe.com または Cleversafe Web サイト: www.cleversafe.com にアクセスしてください。

詳細については、以下を参照してください。IBM クラウド・コンピューティング: <http://www.ibm.com/cloud-computing/infrastructure/object-storage/>



© Copyright IBM Corporation 2016

IBM Corporation
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in the United States of America
July 2016

IBM, IBM のロゴ、ibm.com および Cleversafe は、米国をはじめ他の国における International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。本文書の初出時に、上記およびその他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標 (® または ™) が付いている場合、この情報が公開された時点で IBM が所有する登録商標または慣習法上の商標であることを示しています。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、Web 上の「著作権および商標情報」(ibm.com/legal/copytrade.shtml) を参照してください。

Microsoft, Windows, Windows NT, および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の製品名、会社名、またはサービス名は、他社の商標またはサービスマークである可能性があります。

1 “The Digital Universe of Opportunities: Rich Data and the Increasing Value of the Internet of Things,” EMC Digital Universe with Research & Analysis、IDC 発行、Iview、IDC 発行、2014 年 4 月、<http://www.emc.com/leadership/digital-universe/2014iview/index.htm>。

2 Nadkarni, A.; IDC MarketScape:Worldwide Object-Based Storage 2014 Vendor Assessment Report, 2014 年 12 月、IDC #253055e; https://www.cleversafe.com/documents/public/IDC-MarketScape-Worldwide-Object-Based-Storage-2014-Vendor-Assessment-Cleversafe.pdf?cm_mc_uid=88103752002214484629162&cm_mc_sid_50200000=1450709958

3 IDC Digital Universe Report 2014, Opt. cit., 2014 年。

4 Ibid, 2014 年。

5 Ibid, 2014 年。

6 Nadkarni, A.; IDC MarketScape; Op.cit.; 2014 年。

7 “The Total Economic Impact™”, “IBM Cloud Object Storage”, IBM commissioned paper by Forrester Research, Inc. による IBM コミュニケーション・ペーパー、2015 年 3 月、<https://www.cleversafe.com/documents/public/Forrester-TEI.pdf>

8 Nadkarni, A.; IDC MarketScape; Op.cit.; 2014 年。

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、IBM によって予告なしに変更される場合があります。掲載されている製品・サービスは IBM がビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。

性能データとお客様の事例は、説明目的のみのために提示しています。実際の性能結果は、特定の設定や運用条件によって異なる場合があります。他社の製品またはプログラムと IBM の製品またはプログラムを併用した場合の操作の評価および検証は、お客様の責任で行ってください。本資料の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

確実なセキュリティー体制への取り組みについて:IT システムのセキュリティーでは、社内外の不適切なアクセスの防止策、検出、対応に取り組むことで、システムと情報を保護しています。不適切なアクセスにより、情報が改ざん、破壊、または不正流用される可能性があり、システムへのダメージや他者への攻撃といったシステムの悪用が生じることがあります。IT システムまたは製品によってセキュリティー対策が万全になると考えることは危険であり、1 つの製品またはセキュリティー対策で不正アクセスを完全に有効に防ぐことはできません。IBM のシステムと製品は、包括的なセキュリティー・アプローチの一部として設計されています。そのため、運用手順を追加することがどうしても必要となり、効果を最大限に高めるには、他のシステム、製品、サービスが必要になることがあります。IBM は、システムと製品が他者による悪意のある行為または不正行為から免れることを保証するものではありません。



リサイクルにご協力をお願いします